

# 情報教育におけるプレゼンテーションスキル育成の実践

大阪市立扇町総合高校 池田 明

## 情報処理教育の実情について

商業科をはじめとする専門学科では、従前から情報処理教育が行われてきた。これは、情報工学的な分野を主に学習するもので、情報活用力のスキル育成とは一線を画しているとも考えられる。特に近年は、コンピュータ操作のスキルを重視する指導になる傾向がある。そして、授業の内容を考える場合、各種検定試験の取得のみが実質的な目的である場合も多い。

## 新しい情報教育をめざして

従来の情報処理教育から、新しい情報教育へとニーズは移行していると思われる。例えば、高等学校に新設される教科「情報」において、習得の目標とするのは、

情報活用の実践力

情報の科学的な理解

情報社会に参画する態度

であると謳われている。これに現在の状況をオーバーラップして考えてみると、問題点が浮き彫りになってくる。

まず、情報というものの本質について考えてみた場合に、情報の流通経路として、以下のような情報の流れがあると考えられる。

- 情報の流通経路 -

さまざまな情報（収集） 入手した情報（加工） 伝えたい情報（発信） さまざまな情報

これらの過程のうち、情報関連科目でその授業内容として取り入れられている内容の現状を見ると、主に情報の加工に関しての内容であることが多い。一方で昨今の世界的なコンピュータネットワークの発達に伴って、情報収集に関する実習を取り入れた授業も増えてきているといえるようである。しかし、情報の流通過程の中で不可欠な情報発信の部分について取り上げている実践例は極めて少ないといえる。

真の意味での情報活用能力というのは、コンピュータ操作スキルに終始するものではない。ということは、情報を収集し加工し、そして発信するまでの一連のスキルを身につけることが情報教育として求められてきているのではないかと考えられる。これらを考え合わせると、現状の情報教育における諸実践では、情報発信スキルの育成について行なうものが不足しているといえる。そこで、様々な教科・科目における情報教育において、新たな取り組みとして、情報発信スキルの育成を盛り込んだ指導を模索していかなければならないということになるわけであるが、

具体的にどのようなコンテンツが考えられるだろうか。まだまだ未完成な部分も多いが、私の関わった実践の中からいくつかを紹介してみたい。

## プレゼンテーションスキル育成の例

### 実践事例

#### - 情報ボランティア活動 -

商店街のホームページ作成を請け負い、運用する  
社会人対象にコンピュータ操作を指導する

#### - プレゼンテーション実習 -

いろいろな題材を元に、プレゼンテーションを行う  
調べたことをただ棒読みするのではなく、マルチメディアを活用して行う  
オーディエンス分析を行なう  
準備段階から綿密な計画を建てさせ、記録する  
生徒同士で相互評価をさせる

### 交流活動

ワールドユースミーティングに参加し、結果を生徒商研で発表  
(詳細は <http://www.japanet.gr.jp/w2001/> をご参照ください)

## 活動のポイント

このような、プレゼンテーションを盛り込んだ実習において、実際に生徒にいろいろな活動を行なわせる際のポイントは、以下のようなものが考えられる。

単なるイベントに終わらせない発信の場が必要  
結果をフィードバックして次に活かす  
自ら考えた企画を実践する力も身につく  
情報活用能力の育成

これにより、生徒が自ら考えてプレゼンテーションに反映していく課題解決能力の修得が可能である。

## 今後の情報教育について

まとりに代えて、今後の課題と展望を考えてみたい。急激に進化する情報社会の中で、高等学校における情報教育に対するニーズも、より高度に進化していくと考えられる。これを、2つの視点から考察してみることにする。

### 1. コンピュータ実習を核とした情報教育という視点

情報教育は、コンピュータ操作スキルの上達とコンピュータ関連知識の習得のみが目標である

かのような、旧態依然たる考え方は、早急に払拭する必要がある。しかしながら、コンピュータ操作を全く伴わない情報教育というものも考えにくい。では、どのようにコンピュータ実習を行なっていけばよいだろうか。

まず必要なことは、実習の質的向上である。現状のコンピュータ実習は、操作スキルの向上のみに終始している感が否めない。これを解決するために、生徒が如何にして課題を解決するかを、常に考えながらコンピュータを操作できるような実習のコンテンツ作りが必要である。基本操作の習得と操作スピードの向上は、むしろ自主的な練習によって行うくらいの姿勢があった方が良くともいえるのではないだろうか。

ただし、生徒に自ら考えさせるコンピュータ実習のコンテンツを担当者のみで全て作成し、実践して、評価し、改良していくことは大変労力を必要とすることは想像に難くない。そこで、インターネット等を利用することによって、情報交換・共有を進め、より良い実習授業が実践できるように努めることも重要なポイントといえるであろう。

## 2. 情報発信スキルの育成という視点

プレゼンテーションやウェブページ作成などをはじめとする情報発信については、特に近年社会からのニーズが高まっているといえる。これを反映して、高等学校においてもプレゼンテーションなどを盛り込んだ活動を行ったり、インターネットを積極的に利用したりといった実践は広まりつつあるといえる。

ここで、重要なことは、単に発信さえすればいいというパターンになってしまわないことである。例えば、プレゼンテーションを盛り込む実習の場合、プレゼンテーションの評価を必ず行わせることが大切である。ややもすれば、プレゼンテーションを行うことのみで全勢力が集中してしまい、それが終われば実習も終了したかのように生徒も感じ取ってしまいがちである。しかし、情報発信スキルを身に付けさせるには、生徒自身がプレゼンテーションによって何に気づき何を身に付けたかを実感させることが重要である。プレゼンテーションを終えた充実感に浸るあまり、この大切なポイントを忘れないように配慮することが指導の際の課題である。

具体的な手法としては、活動の一部始終を記録して、ポートフォリオとして残させておくこと、評価の手助けとなるような評価シートを作成しておくこと、前もって授業の計画の中に評価セッションを組み込んでおくことなどが挙げられる。いずれも、ちょっとした配慮と工夫で実施できることなので、画龍点睛を欠かないように気をつけたいものである。

## 参考文献

- 企画実践型カリキュラムを創る 田中博之 編著 明治図書  
翼をもったインターネット～国際交流～ 影戸誠 編著 日本文教出版  
総合的な学習で育てる実践スキル 30 田中博之 著 明治図書  
増補 教育方法へのパスポート 水越敏行 著 日本文教出版  
ヒューマンネットワークをひらく情報教育 田中博之 編著 高陵社書店